

# エネルギー トランスフォーメーションを 地域からデザインする

## SDGs が生み出す地域の価値

ゲスト 石井一英 北海道大学 大学院工学研究院 教授

聞き手 奥本素子 北海道大学 CoSTEP 准教授

2.23 水 / 祝  
14:00-15:30

くしろフィス

〒085-0014 北海道釧路市末広町 11 丁目 1-10 クローバービル 2F

事前申込 ↓



北海道大学



Communication In  
Science & Technology  
Education & Research Program





ゲスト 石井一英

北海道大学 大学院工学研究院 教授

1970年、北海道札幌市生まれ。北海道大学大学院工学研究院 循環共生システム研究室教授。同大学大学院工学研究科博士後期課程を中途退学後、助手・助教・准教授を経て、2018年から現職。身近なごみ問題の解決に向け、北海道・全国のフィールドにして、住民参加、分別協力、資源化方策、適正処理技術、最終処分まで幅広い研究に従事。最近はバイオマス、再生可能エネルギー等の地産地消による地域活性化やまちづくりにまで研究領域を広げている。

趣味は音楽演奏と読書。好きな食べ物はジンギスカン。

エネルギーの語源であるギリシア語の「energeia エネルゲイア」は、可能性が実現するという意味もあるそうです。秘められた可能性をどう現実のものとして生かすのか、今北海道の多くの地域の秘められた可能性が花開く準備をしている段階なのかもしれません。

エネルギートランスフォーメーション（EX）は廃棄されてきたものや再生可能なものをエネルギー資源を生み出していく試みで、これからの持続可能な社会に必要不可欠です。しかしEXは単に環境への配慮やエネルギー不足を補うだけでなく、地域の暮らしに合わせたエネルギーの在り方についても考える契機でもあります。地域の産業の結果出てくる廃棄物を活かしたり、風土に沿った再生エネルギーが生まれるかもしれません。

このカフェでは、北海道大学で未来の暮らしと循環型社会を研究し、地域と共にプロジェクトを進めようされている石井一英さん（工学研究院 教授）を招き、釧路をはじめとする北海道の地域が持っている可能性をたくさん話してもらいます。その可能性の中からどんな未来をエネルゲイアさせていくのかについて、皆さんと話し合ってみましょう。

事前申込



くしろフィス



<https://kushirooffice.com/>

カフェの詳細



<https://robust.eng.hokudai.ac.jp/news>

後日配信



- 主催 北海道大学ロバスト拠点（北海道大学農林水産工学国際連携研究教育拠点）  
北大共創の場「北大サステイナブルコミュニティ拠点」
- 共催 北海道大学 CoSTEP
- 後援 釧路市、釧路商工会議所、大地みらい信用金庫